

●漁況情報

- 真鶴方面の大型定置網を中心に8月からキハダの豊漁が続いています。日に10トンを超えることもあり、嬉しい漁となっている漁場も多いようです。
- 東京湾の夏のマダコ漁が例年と比較して低調です。9月に入ると例年漁獲が少なくなってきますが、今年に限っては9月になってから全くと言っていいほど獲れない状況とのこと。東京湾では夏と冬にマダコの漁獲ピークがありますが、冬の漁獲に期待したいところです。
- 秋しらす漁が好漁となっています。漁船によっては1日に200kg以上の漁獲があります。「湘南しらす」の公式サイト（<https://shonan-shirasu.org/>）をご覧ください。

「湘南しらす」公式サイトへのアクセスはこちら



●浜の話題

- 9月から、大磯二宮漁協所属の大磯の定置網が網型を変えて操業しています。網型が金庫網付きの落とし網から、二段落し網になったことで、沖の魚が入るようになり、キハダやサワラが入る等、好漁が続いています。
- 9月7日、令和5年度神奈川県青年漁業士養成講座のうち漁業制度コースが、波止場会館（横浜市中区）で開催されました。2名の青年漁業士候補者に対して、県農水産部水産課職員や県漁業士会会長を講師に、県の水産振興策や水産業活性化指針の解説、水産関係法制度などについて講義が行われました。
- 9月8-9日、令和5年度関東・東海ブロック漁業士研修会が、静岡県焼津市で開催されました。本県漁業士会会長と副会長が出席し、近年の漁業動向に関する研修の受講や各県漁業士との意見交換などを行いました。令和6年度は神奈川県が開催当番となります。
- 9月14日、県漁業士会が初の県内視察調査を実施し、小坪地区で取り組んでいる「海ぶどうの陸上養殖」について視察しました。当日は、金沢から岩地区の漁業士会員8名を含む漁業者及び関係機関25名が参加し、海ぶどう生産方法から販売・収支状況に至るまで、小坪の指導漁業士 ヴェルデ丸さんに詳しく説明して頂き、大変有意義な視察となりました。



指導漁業士から海ぶどう養殖の方法と収穫状況について説明があり参加者は熱心に聴いていました

- 9月14日、鎌倉漁協に鎌倉の海と漁業の総合学習で、稲村ケ崎小学校の5年生38名が訪れました。当日は鎌倉漁協組合長が、鎌倉の季節別に獲れる魚や漁業について説明しました。小学生からは

「漁業で辛いことは何ですか?」といった質問があり、組合長からは「漁港がない鎌倉では台車に載せて波に抗って漁船を揚げ下ろするのが日常で、それが辛い」との回答がありました。



組合長から鎌倉の海や漁業について説明がありました

- 9月14日、(公財)相模湾水産振興事業団は7~8 cmのメバルとカサゴの種苗各5千尾を、腰越漁協はメバル種苗千尾を、放流しました。メバル、カサゴは共に浅場の刺網に掛かるので、放流にあたった腰越漁協漁業研究会の若手漁業者も、今後の漁に繋がるよう、期待を寄せて放流しました。
- 9月18~19日、平塚市漁協は、台湾の食育協会らの招待を受け、学校給食における食育の活動について講演しました。立場が異なる学校・行政・漁協が共同する取組みに特に興味を惹かれていたそうです。



プログラム



講演の様子

- 9月20日、県定置漁業研究会と相模湾試験場は小田原水産合同庁舎で相模湾定置網漁海況説明会を開催しました。4年ぶりの対面開催でしたが、漁業者や漁業関係者など28名にご参加いただきました。相模湾試験場の研究員から「R5年上半期の漁海況経過と下半期の見通し」と「相模湾ブリ2023年春季の豊漁について」計2課題の話題提供があり、参加者は熱心に聴講していました。



話題提供の様子

- 9月24日、平塚市漁協は、「食育」という言葉を広めた明治時代のベストセラー作家 村井弦斎を記念した「村井弦斎まつり」に参加しました。シイラとソウダガツオの燻製の販売や「お魚釣りゲーム」が好評でした。



会場



燻製の販売

○ 9月26日、長井と小坪地区の漁業者が生産するワカメ種苗の検鏡と育成小屋の環境測定を実施しました。23日以降、北風が吹くことが多くなり気温が低下し育成水槽内の水温が23℃以下となったため、育成小屋内を4000ルクス以上に明るくして、海水交換により栄養分を与えて成長を促したところ、10月中旬には卵細胞や芽胞体も見られるようになりました。



種系上の芽胞体（40倍）



明るくすると共に育成水槽の海水を交換して栄養補給

○ 10月1日、鎌倉漁協は「鎌倉漁協 魚まつり」を盛大に開催しました。当日は300名余りが訪れ、鎌倉を代表する、湘南しらす、伊勢海老、鎌倉はまぐり、地だこ、サザエの他、カワハギ、ザル盛でお買い求めしやすいミズカマスやジンダ等が直売され、好評の内に完売しました。



当日は鎌倉パークホテル前の会場が多くの人で賑わいました！

○ 10月4日、茅ヶ崎市漁協は、（公財）相模湾水産振興事業団と合同で合計7千個のサザエ種苗を地先漁場へ放流しました。



サザエ種苗

- 10月5日、小田原藻場再生活動組織は片浦地区の沖合に設置したカジメ母藻礁のメンテナンスと、台風で避難させていた簡易母藻礁の再設置を行いました。母藻礁内のカジメには成熟しているものも確認されました。来年新しい芽が出ることに期待したいところです。



成熟した母藻礁内のカジメ



再設置した簡易母藻礁

●お知らせ

①「令和5年度神奈川県水産技術センター 研究発表会」のお知らせ

「令和5年度神奈川県水産技術センター 研究発表会」を令和5年11月16日（木）13:30から、かながわ県民センター2Fホールで開催します。13:10から当日受付、事前申込みの必要はございません。発表テーマについては、当センターホームページに掲載いたしますので、ご興味のある方はぜひ参加下さい。

研究発表会ご案内ページ

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/evt/5kenkyu-happyo-event.html>



②「漁業就業・定着化のための資格取得支援事業」について

県水産課では、県内の新規就業者の定着や独立を支援するため、日々の操業に必要な小型船舶操縦士免許の取得費用を補助（1/3、上限5万円、予算の範囲内）する「漁業就業・定着化のための資格取得支援事業」の受付を11月30日（必着）まで延長しました。神奈川県内の漁業就業者のうち、漁業就業してから3年以内の方が対象（資格取得後、県内で3年以上漁業就業を継続することが条件）なので、該当の方は下記HPで内容をご確認の上、ご活用ください。お問合せ 水産企画グループ 045-210-4542

資格取得支援HP

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/gyogyoshugyoshikaku.html>

